

内水試ニュース

うろこきらい

内水面水産試験場

第12号

平成30年3月30日発行
山形県内水面水産試験場

平成29年度の内水面水産試験場のイベント

親子川遊び教室

平成29年7月29日(土)

昨年度から県南漁協と共催で開催している「親子川遊び教室（名人に教わるカジカ釣り）」を7月29日に米沢市小白布地内の大樽川で開催しました。

このイベントには「魚と川に親しんでもらい将来の内水面漁協組合員を育てる」といった目的があることから、参加者を更に増やす必要があると考え、今年度は米沢市内の全小学校にチラシを配布したところ、定員を上回る申し込みをいただき、最終的に親子16組（34名）から参加していただきました。

前日夜から当日朝までの雨により、増水と若干の濁りのある状況となり、カジカ釣りの場所を水流の弱い場所に限定し、安全に配慮することで実施することとしました。イベント中は雨に降られることはなかったのですが、コンディションの悪さも影響して、残念ながら名人も含め、誰にも1尾も釣れない結果となりました。



カジカは釣れませんでした。前日職員が捕まえたカジカと水生昆虫を見せながらの生態説明、サクラマス放流体験、カジカとヒメマスの試食（スイカのデザート付き）を行い、魚と川に親しんでもらえたものと考えています。

試験場参観デー

平成29年8月27日(日)

昨年に引き続き晴天の下での開催となり、305人の来場者を記録しました。

コイ釣堀では、餌が無くても釣針だけで釣れてしまう程で、誰でも楽しめることができ、終日大盛況でした。また、金魚すくいも、小さいお子様にも楽しめ、魚に親しみをもってもらえる機会を作ることができました。

午後はメインイベントであるつかみ取りが行われました。つかみ取りに合わせて来場する方も居て、準備したニジマスとヒメマスは30分程度で全て捕まえられてしまいました。お家で美味しく召し上がっていただけたものと思います。



山形県独自の大型マス品種 「ニジサクラ」を開発しました

近年全国的に大型マス需要が高まり、各地でご当地サーモンの開発が盛んになっております。山形県でも平成25年から「山形独自のブランドマス開発試験」で県独自の大型マス品種の開発に取り組み、この度、新たな品種として全雌異質三倍体ニジマス×サクラマスを開発しました。名前が長いので仮称として「ニジサクラ」と呼ぶことにしました。

ニジサクラはニジマスの雌親とサクラマスの雄親を掛け合わせたバイテク魚です。全雌三倍体なので成熟せず1年中美味しく食べることができます。また、飼育試験の結果では、1kgに成長するまでに約2年、2kgに成長するのに約2年8ヵ月かかることがわかりました。

食味については、養殖業者、飲食店関係者に試食していただいたところ、食感、脂ののりがよく、臭みが無いという意見が多く、また、色揚げがよく鮮やか、旨味がある、味が濃いという意見がありました。

バイテク魚を養殖するには、その魚の特性や生産方法等を水産庁に報告し、生産方法や魚自体が生態系に影響を及ぼさないか等、定められた条件に当てはまっているかを確認してもらう必要があります。今回ニジサクラの特性評価を行い、水産庁に報告したところ、条件に当てはまっていることが確認され、養殖魚として扱うことができるようになりました。

現在、養殖場1ヶ所で試験飼育を行い、成長や生残り等のデータ収集を行っているところで、来年度以降も数箇所に試験飼育をお願いしてデータ収集する予定です。

今後本格的なニジサクラ養殖ができるように研究開発を進め、生産体制を整えて行きます。ニジサクラを使った大型マス養殖が広がることで、山形県の内水面養殖が盛り上がることを期待しています。



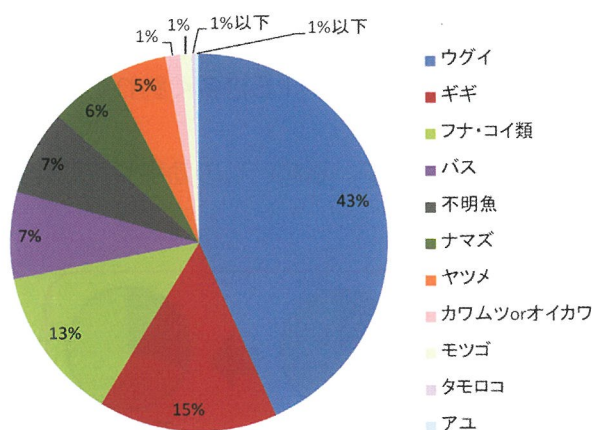
山形県内水面水産試験場で開発した新品种「ニジサクラ(仮)」

カワウは何をたべているのでしょうか？

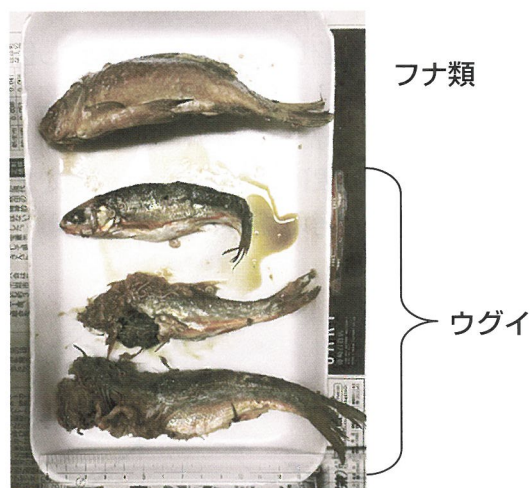
近年、農林水産業における鳥獣被害は全国で増加傾向にあります。イノシシやサル、シカといった動物による被害がニュースや新聞でよく取り上げられますが、カワウによる被害は、我々水産分野の人間にとって大きな関心事の1つでしょう。本県のカワウは平成20年ごろから増加しているとみられ、河川・湖沼・養殖池等での食害が深刻化しているものと考えられます。では、いったいカワウはどんな魚を食べているのでしょうか？ 最上川第二漁業協同組合、山形県内水面漁業協同組合連合会の協力の元、「胃の中身」の調査を行いました。

須川コロニー周辺での事例（～平成28年まで）

最上川支流の須川では集団営巣地が確認されており、その周辺で駆除されたカワウの胃内容物調査を実施してきました。結果、ウグイが半分程度を占め、ギギやオオクチバスも捕食していました。

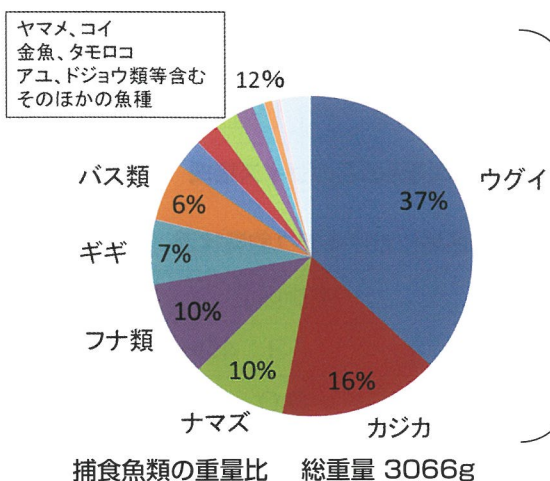


捕食魚類の重量比 16羽分の胃内容物(630g)



村山橋コロニー周辺での事例（平成29年3月～6月）

最上川と寒河江川合流点近くの通称：村山橋で集団営巣地が確認されており、胃の解剖と合わせてカワウが吐き出して地面に落とした内容物の回収も実施しました。重要魚種であるアユは、調査時期も関係し、1%以下の重量比でした。また、須川周辺とは違い、カジカも観察されました。



捕食魚類の重量比 総重量 3066g

**ウグイで3分の1以上
カジカを合わせて
魚類の50%を占める**

須川周辺での捕食金額は、3か月で329万円に上ると試算されており（内水試調べ）、今後も胃内容物調査による被害調査や、被害低減に向けた対策を共同で行っていく予定です。

真室川のアユ漁場で石起こし

全国的なアユ漁場の調査から、漁場の川底で、長径25cm以上の石の割合が高いほど、また川底の石が浮石・載り石の状態であるほど、アユの釣獲が良い傾向があることが判りました。大きな沈み石を浮石・載り石にすれば釣獲の改善が期待できると考え、以前に挑戦したことがありましたが、釣獲が良くなった確かなデータは得られませんでした。

最上漁協が真室川のアユ漁場で石起こしを行うとのことで、内水試も石起こしに協力し、川底の状態や釣獲について追跡調査を行いました。

6月16日に石起こし予定地(図1の石起こし区)で川底の状況を調べたところ長径25cmの石の割合は26%以下で、不振漁場の特徴でした。6月17日に最上漁協組合員10名と内水試3名で、石起こし区1、2の大きな沈み石をボールで起こし、浮石・載り石にしました(お疲れ様でした!)。7月21日に川底の状態を調べたところ、石起こし区1、2では大きな石の数の割合が増え、良好漁場の26%以上になりました(図1)。しかし、隣接する未実施区1、2では割合が低く、不振漁場の値でした。

7月1日の友釣り解禁日に、石起こし区1、2と隣接する未実施区1、2で釣り人を観察し、釣れたアユを数えました。すると石起こし区では、隣の未実施区より約1.5倍多く釣れていることが判りました(表1)。

石起こしの効果に希望を持てる結果です。更に調査を積み重ねて、石起こしの効果や持続時間を解明しようと考えています。

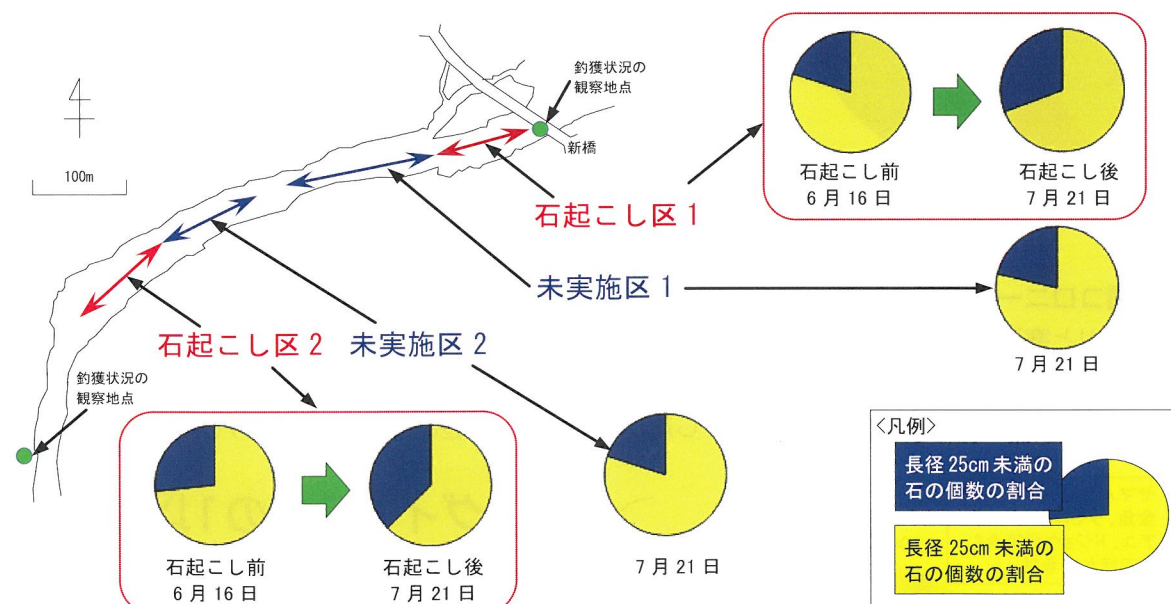


図1 真室川新橋付近における調査区と、各区の河床の石のサイズ組成

表1 平成29年7月1日における真室川の各区域におけるアユ釣獲状況

	実施区1	未実施区1	実施区2	未実施区2
観察時間	9:15~11:00		13:40~15:00	
釣り人数	3.9	5.2	3.0	2.7
CPUE (尾/人/時間)	6.1	4.0	4.2	2.5

水産用抗菌剤の購入方法が変わりました!!

魚が病気にかかったという時に役立つのが水産用抗菌剤のような薬ですが、「本当に病気かどうか分からないけど、とりあえず薬をやって様子を見てみよう」、「薬をやって病気が治ってきたから、節約のために与える薬を減らそう」ということをやっていませんか？**中途半端に薬を使うと、薬が効きにくい、耐性を持った病気が発生することがあります！** そうなれば当然、薬が効きませんので魚が死んでいくのを見て嘆くことしかできません。

そこで、平成30年1月1日から専門家が薬の使用状況を把握し、適切な指導ができるように、薬の買い方が変わりました。

水産用医薬品の使用に関する記録及び水産用抗菌剤の取扱いについて

- 水産用医薬品（食用に供するために養殖されている水産動物に使用する動物用医薬品）の使用記録の徹底
- 水産用抗菌剤（水産用医薬品のうち抗菌性物質製剤）の購入の際に専門家の指導を必要とする仕組みを新たに導入する
（平成29年4月3日付 消費・安全局長通知、平成30年1月1日から運用開始）

具体的には、以下の手順で薬を買うことができます。

- ①専門家（内水面水産試験場か獣医師）に抗菌剤使用指導書の交付を申請します（ただし、インゾンやパイセスには必要ありません）。
- ②専門家が指導書を作成して養殖業者さんに交付します。
- ③その指導書のコピーを薬の販売業者に提出します。
- ④販売業者が指導書にしたがって薬を販売します。

抗菌剤使用指導書がなければ薬を購入することはできません。

**魚の具合が悪くなったら、まずは
私たちにご相談ください！**

畑谷大沼におけるオオクチバスの体長組成

各内水面漁業協同組合が、湖沼の水抜きや河川での駆除釣り大会などで外来魚の駆除を実施しています。

今年度、畑谷大沼で作谷沢漁業協同組合が7月9日と23日に実施した外来魚駆除にお邪魔しました（図1）。今回は、その時に駆除されたオオクチバスの体長の測定結果をお知らせします。



図1 畑谷大沼での外来魚駆除の様子

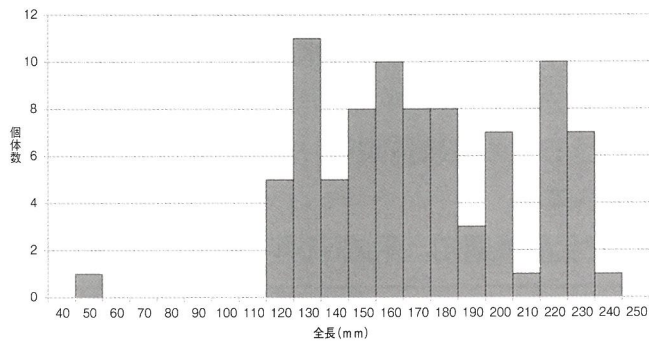


図2 畑谷大沼におけるオオクチバスの全長組成



図3 採捕された0才魚

多くは12cm～24cm台の個体でしたが、今年度生まれたと思われる5cm台のものも1個体確認できました（図2,3）。これは、畑谷大沼でオオクチバスが産卵し、それらが成長して大きくなっていることを示しています。産卵期の駆除や0才魚をまとめて採集することが、湖沼で外来魚を減らすことに有効だと考えられます。

今後も県内における外来魚の生息分布、成長、成熟状況や食性などを調査していきます。各湖沼や各河川で駆除した外来魚の検体や情報の提供をお願いします。

発行元

山形県内水面水産試験場

〒992-0063 米沢市泉町一丁目4-12 TEL : 0238-38-3214 FAX : 0238-38-3216
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/145011/>